

2023年6月4日
三位一体の主日
菊地大司教 メッセージ

ミサを捧げるとき、司祭は十字架の印の後に、「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、みなさんとともに」と呼びかけます。

この言葉は、パウロが、コリントの教会に宛てた書簡を締めくくった言葉です。コリントの共同体への様々な忠告や教えに満ちあふれた書簡を、パウロのこの祝福の言葉で締めくくります。

そして今を生きるわたしたち教会は、その締めくくりの言葉から、感謝の祭儀を始めます。すなわち、現代を生きる教会は、感謝の祭儀のために共同体として集まるたびに、パウロが締めくくった地点から、常に新たなスタートを切っています。

教会は、主イエスの恵みにあずかり、神の愛に満たされ、聖霊に導かれて、聖徒の交わりのうちに、日々新たに生かされていきます。自ら創造されたたまものであるいのちを生きる人間を、独りたりとも滅びの道に捨て置くことはありません。神の愛における決意は、この三位一体の神を表す言葉に満ちあふれています。三位一体の神秘とは、これでもか、これでもかと、ありとあらゆる手を尽くして愛を降り注ぐ、神の愛の迫力を感じさせる神秘であります。

わたしたちを共同体の交わりへと導く聖霊は、教会に常に新しい息吹を吹き込んでいます。わたしたちは、過去に戻りません。

教皇フランシスコは、「福音の喜び」にこう書いておられました。

「宣教を中心にした司牧では、『いつもこうしてきた』という安易な司牧基準を捨てなければなりません。皆さんぜひ、自分の共同体の目標や構造、宣教の様式や方法を見直すというこの課題に対して、大胆かつ創造的であってください。」(33)

わたしたちは、「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わり」によって、繋がれています。ですから、わたしたちはどこにいても、常に、教会です。

「兄弟たち、喜びなさい」とコリントの教会に呼びかけたパウロは、「思いを一つにきなさい」と諭しています。わたしたちが語るキリストの体における一致は、同じことをおなじように考えて、おなじように行動する、一緒とは違います。聖霊はわたしたち一人ひとりに異なるたまものを与えられた。その聖霊のたまものを忠実に生かし、聖霊の交わりの中に生きるとき、わたしたちは異なる場で異なることをしていても、同じ聖霊に満たされ導かれることで、一致しています。

主キリストの恵みに満たされ、御父の愛に包まれ、聖霊の導きとともに身を委ねることで、一致のうちにある教会でありましょう。